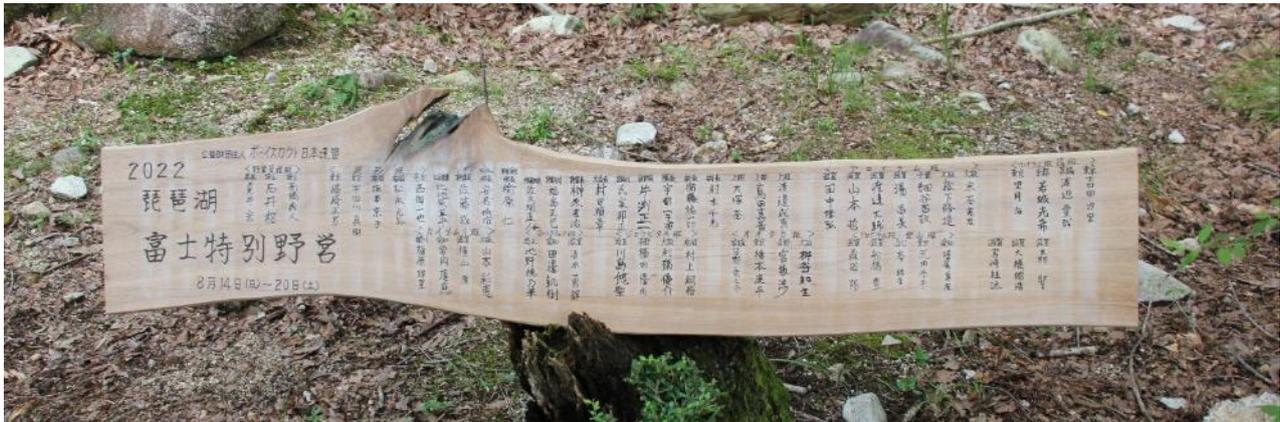




## 富士特別野営2022概要報告



1. 期 間 2022年8月14日(日)～19日(金) 5泊6日

2. 場 所 滋賀県 高島トレイル・琵琶湖周辺

### 3. 目的・ねらい

目 的：スカウト運動の基本である野外活動(野営)を通じて、その重要性を確認し、班制教育を通じての「教わること」「学ぶこと」を再確認する。

プログラムとしての試練を乗り越える体験の中から、信頼・絆の大切さと、友情を育み、スカウトスピリッツ(徳性、忍耐力、気力、清貧)を実践する。

ねらい：(1) ステータスを持つ名誉ある野営大会とする。

(2) 本格的な野営、ウッドクラフトを体験する。

(3) チームワーク、スカウト技能・知識、体力で乗り越えていくもので、躍動的で系統的な活動プログラムを設定する。

(4) 進級・履修細目の認定は隊長の専任事項であるとの見地から、ベンチャースカウト部門の進級細目の履修は主体としない。

(5) 会場の特色を活かした場外種目を設定する。

※ベンチャー隊に上進後の2年半すべてがコロナ禍にあったことから、野外活動の機会が少ないことを危惧しており、スカウト技能や体力の低下が予想されたが、1人のプログラム脱落者を出したものの、予定していたすべての野外プログラムを完遂することができた。

※奉仕ローバースカウト13人のうち9人が過去の富士特別野営におけるスカウトとしての参加経験者であり、先輩スカウトが自らの参加経験をふまえてベンチャースカウトを支えるという流れが確立できた。

4. 参 加 者 スカウト9県連盟15人(男子12人・女子3人)

隊指導者・上級班長 宇都宇宙(福岡)隊長、他4人

大会本部・スタッフ 榊原孝治野営長、片渕正一副野営長他18人

ローバースカウト年代 7県連盟13人

※18NSJの開催と開催時期が近かったこと、同年の3月に富士特別野営2021を開催したこと等の影響を受けて、スカウトの参加者数が少ない結果となってしまった。

※スカウト数に対してスタッフ数が多くなったが、今回のプログラムを展開するには必要な人数



## 7. 大会の準備

3年前から構想を練り、前年度に実行委員会（実行委員長：榊原孝治理事）を編成して準備を進めてきた。実行委員会編成前の複数回の現地実踏と準備会議を経て、実行委員会編成後は5回のオンラインによる実行委員会と2回の現地視察を行い、同委員会のもとに3つの班を編成して班毎に具体的な諸準備が進められた。

また、事前にオンラインにて隊集会を開催することで、参加者への情報提供や事前課題の案内などを行い、集合前の準備に意欲的に取り組ませることができた。

近畿圏で初めて開催する大会として、2泊の山岳移動野営を含めたプログラムを企画・準備した。

## 8. プログラム

富士スカウト章及び隼スカウト章を取得したベンチャースカウトを対象とした名誉ある野営大会として、北は宮城、南は福岡から15人が集まり3～4人の小グループによる編成で、2泊3日間の山岳移動キャンプと、水資源保護活動に触れつつ、自作の筏による琵琶湖の湖上移動といった冒険的なプログラムの中で仲間との絆を深めつつ、高度な技能を発揮した。

山岳移動野営では、全長80kmある高島トレイルを4分割し、4班による分担によりすべてのエリアを踏破した。下山後は針江地区において、生水（しょうず）という湧き水を炊事や飲料として活用する「かばた」というシステムを見学することを通じて、水環境を守ることを学んだ。

移動野営の締めくくりとして、琵琶湖では自作の筏を用いて約3kmの距離を湖上移動した。

なお、大会をとおして、次のように水をテーマとしてプログラムを展開した。

### 【プログラム想定】

2014年より続いている、富士特別野営（Fuji High Adventure）をいよいよ関西で開催する。この新たなステージとして、自然豊かな滋賀県琵琶湖西岸を選んだ。琵琶湖は日本一の面積を誇る湖であり、その水の源となる山々に囲まれた、水と緑豊かな地である。

琵琶湖西側の山々は、日本列島の背骨となる中央分水嶺（日本海側と太平洋側への水の流れが分かるところ）の中央にあたり、その山の連なりからは、若狭湾と琵琶湖が見渡せ、素晴らしい景観と変化に富んだ自然に出会うことができる。また、水を生かした素晴らしい文化や、かつて京の都と若狭湾を結ぶ「鯖街道」と呼ばれた交通の要所としての歴史ある地でもある。

まさに、この地は我々ベンチャースカウトが、High Adventure（高度な野外活動）を展開するのに最高のフィールドである。今回の「2022 富士特別野営」をこの地で開催するにあたり、滋賀県の素晴らしさを調査することを県知事より依頼された。スカウトとして培ったスキルと視点で、水の豊かな滋賀県の魅力を調査して、滋賀県知事に報告することを使命とする。

まず初めに、琵琶湖西岸を囲む山々、中央分水嶺に沿った全長80kmにわたる「高島トレイル」を、4つの班に分かれて調査する。この「高島トレイル」は、かつて鯖街道としても古くは山を越えるために存在した道を、地元の人々の手によって、トレッキングコースとしてよみがえらせたコースである。昔の人々が歩いていた姿に思いを巡らせ、中央分水嶺といわれる所以を検証しながら、自然豊かなトレイルコースとしての魅力やコースの現状を調査することを目指す。

そして、山の次に水の調査を行う。SDGsにより世界中から注目され水を活かすシステムの調査を行う。針江地区に行き、「かばた」と呼ばれる、豊かで美しい水を守るために古来より継続されている方法と文化について調べる。水は言うまでもなく、生きとし生けるものにとって必須のものであり、人類の未来を考える時、水については大きな課題が沢山ある。これらの課題を考えるヒントを見つけ出す

ことを目指す。

最後はスカウトスキルを集結して、琵琶湖に乗り出す。琵琶湖に流れ込む安曇川では、材木の運搬のために筏をつくって運搬をしたが、川の魔物から守るためにシコブチ神社がいくつも建てられるくらい危険は多かった。

琵琶湖を自らの体で体感して、言い伝えの「魔物」とはなにか調べ、世界でも最も古い部類の母なる湖である琵琶湖の偉大さと魅力を見つけ出すことを目指す。

これまでのスカウト活動で培ったスカウトスキル・スカウト精神・チームの力を発揮して、滋賀県の自然に身を置き、自然と向き合う。そして自らの体を通してこのフィールドの魅力と未来に繋がるアイデアを見つけ出し、滋賀県知事に伝えることが使命である。

### 【主なプログラム】

#### 前日～受付前（8月13日～14日午前） スタッフ会議・準備作業

スタッフは前日から集合し、大会開催の準備やプログラムの確認などを行った。

※高島トレイルの縦走プログラムについては、14日早朝から15日夕方にかけて、RSによる直前実踏を実施した。

※筏プログラムについては、15日（2日目）にRSによる試行を行っている。

#### 第1日（8月14日） 受付、オリエンテーション、山行計画、開会式

参加スカウトは、全国からきたの聖地として知られる近江神宮に集合し、隊長からの導入があった後に全員にネッカチーフを授与された。班毎に分かれて翌日からの山岳移動野営の計画を練り、日が暮れる頃に実施した開会式では、野営長から激励の言葉が送られた後に隊編成がなされ、全員で年長隊富士野営の歌を歌った。



## 第2日（8月15日） 移動キャンプ

早朝、近江神宮を出発して、高萩トレイルを4分割した下記の4行程に分かれて班ごとの移動キャンプを実施した。豪雨と快晴とが絶え間なく切り替わる悪天候の中、水場の調査をしながらの山行となった。

コロナ禍でのキャンプということから、宿泊にはハンモックを使用し、開放された空間の中での夜を過ごした。また、炊事は各自で作成したアルコールバーナーを用いての調理とした。

Aコース：愛発越（あらちごえ）→乗鞍岳→芦原岳→黒河峠（泊）→三国山→明王ノ禿→赤坂山→栗柄越→寒風→マキノ高原（泊）→針江公民館

Bコース：マキノ高原→寒風→大谷山→抜土→近江坂→大御影山（泊）→大日尾根ブナ林→三重嶽→水谷別れ→武奈ヶ嶽→水坂峠（泊）→針江公民館

Cコース：水坂峠→二の谷山→桜峠→搦谷越→行者山→横谷峠（泊）→駒ヶ越→駒ヶ岳→与助谷山→池河内越→桜谷山→木地山峠（泊）→針江公民館

Dコース：三国岳→岩谷峠→地蔵峠→三国峠（泊）→ナベクボ峠→おにゅう峠→根来坂→百里ヶ岳→木地山峠（泊）→針江公民館



第3日（8月16日） 移動キャンプ



#### 第4日（8月17日） 移動キャンプ、「かばた」見学

下山後、針江地区にてカバタ（川端）の仕組みと水文化に触れた。

生水（しょうず）という湧き水を炊事や飲料として活用するシステムであり、自然との共生によって成り立っていることの説明を受け、地域一丸となって水環境を守っていることを学んだ。

見学後は、安曇川浜園地に移動し宿泊した。



## 第5日（8月18日） 筏プログラム

琵琶湖畔の安曇川浜園地にて筏を作成し、琵琶湖を湖上移動した。沖に向かった水流に流されながらも、約3 km先の安曇川町四津川地先湖岸を目指して筏を漕ぎ進めた。

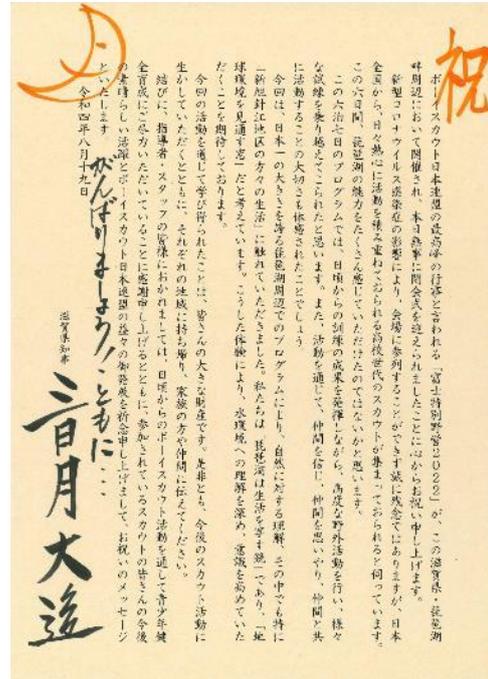
着岸後は筏を解体した後に、仏性野野営場に向けて再び移動した。

日が暮れた後に、営火を囲んで自身の活動を振り返った。



第6日（8月19日） 閉会式、解隊式、解散

仏性野野営場にて閉会式を実施し、三日月大造・滋賀県知事からのメッセージが読み上げられた。すべてのプログラムを成し遂げた14人のスカウトに完修証が授与され、スタッフから弥栄が贈られた。その後、ボーイスカウト初野営の地である雄松崎に移動し、集合写真を撮るなどした後、年長隊富士野営の歌を歌うなど別れを惜しみつつ解散となった。



第7日（8月20日） スタッフ解散

プログラム資材等の片付けを行った後に、すべてのスタッフが解散となった。

## 9. コロナウイルス対策と発生状況

集合前の対策として、直近2週間の健康調査と行動記録を求めた上で、抗原検査キットを配布し、自宅出発前に陰性であることを確認することを、全参加者に求めた。その結果、スカウト1人とスタッフ5人が参加を辞退することとなった。

大会2日目にRSスタッフ1人が体調不良となったことから病院に搬送したところ、コロナウイルス陽性であることが確認された。当該スタッフはそのまま入院することとなったが、搬送先である高島市民病院に相談の上で、現参加者についてはこのままプログラムを継続するが、感染が疑われる症状が出た場合は検査をせずに帰宅して地元で診察を受けることとした。また、感染拡大のリスクを低減するために、発症者発生後に入場を予定していた方にはすべてお断りを入れることとした。

その後、大会期間中にRSスタッフ3人が体調不良となり、帰宅対応をとった。ベンチャースカウトに発症者はでなかったが、このことを受けて、大会期間を1日短縮し8月19日(金)で解散することとした。

なお、大会終了後にスカウト2人・スタッフ2人からコロナウイルスに感染した旨の報告があった。

## 10. 参加者内訳

No.	県連盟	スカウト			スタッフ			合計
		男子	女子	小計	指導者	RS	小計	
1	宮城	1		1				1
2	茨城					1	1	1
3	埼玉	1	1	2	1	1	2	4
4	千葉				1		1	1
5	神奈川		1	1	1		1	2
6	東京	1		1	2	3	5	6
7	長野	2		2				2
8	愛知	2		2		1	1	3
9	滋賀	2		2	5	4	9	11
10	京都					1	1	1
11	奈良				1		1	1
12	大阪	2	1	3	5		5	8
13	山口					2	2	2
14	福岡	1		1	3		3	4
合計		12	3	15	19	13	32	47

以上

富士特別野営2022会計報告

2022.09.13版

2022予算

2022決算

<収入>

<収入>

<予実差>

区分	金額	内 訳	金額	内 訳	予算-決算
参加者負担金	2,108,000	スカウト @38,000×16人 スタッフ @30,000×42人 宿泊費(成人のみ) @8,000×30人	608,000 1,260,000 240,000	スカウト @38,000×16人 スタッフ @30,000×42人 宿泊費(成人のみ)	240,000
その他	60,000	支給品販売(ポロシャツ、ハンモック等) 制作物販売(過去大会のポロシャツ等)	42,000 18,000	支給品販売(ポロシャツ、ハンモック等) 制作物販売(過去大会のポロシャツ等) 支援者施設使用料	-20,500
自己財源	589,980	一般会計より	0	一般会計より	330,581
合 計	2,757,980		2,207,899		550,081

<支出>

<支出>

<予実差>

No.	科目	金額	内 訳	金額	備 考	内 訳	決算-予算
1	運営費	612,900	① 食材費 ② プログラム用食材費	595,500 17,400	① 食材費 ② プログラム用食材費(①を含む) ③ 参加費返金	308,748  215,000	89,152
2	会議費	0	① スタッフ会議 ② 現地作業 ③ その他打ち合せ	0 0 0	① スタッフ会議 ② 現地作業 ③ その他打ち合せ	0 0 0	0
3	旅費	104,000	① 現地作業 ② 職員出張旅費 ③ プログラム交通費 ④ その他	0 56,000 48,000 0	① 現地作業 2回(6月、7月) ② 職員出張旅費 ③ プログラム交通費 ④ その他	0 43,500 47,020 0	13,480
4	印刷製本費	5,000	① 感謝状、完修証 ② その他 ※基本的に局内印刷	4,000 1,000	① 感謝状、完修証 ② その他 ※基本的に局内印刷	2,400 2,513	87
5	消耗品費	915,820	① 班旗 ② プログラム用消耗品 ③ 参加章、完修章 ④ 支給品(ネッカチーフ等)60人分 ネッカチーフ 一人一枚 帽子 一人一個 ポロシャツ 一人二着 ハンモック 一人一個 浄水器 一班一個 防水シート 一人一枚 ⑤ その他	2,200 200,000 79,200 48,400 106,920 369,600 72,500 8,000 29,000 0	① 班旗 ② プログラム用消耗品 ③ 参加章、完修章 ④ 支給品(ネッカチーフ等)60人分 ネッカチーフ 一人一枚 帽子 一人一個 ポロシャツ 一人二着 ハンモック 一人一個 浄水器 一班一個 防水シート 一人一枚 ⑤ その他	176,983 79,200 48,400 112,860 402,380 57,000 0 39,675 3,160	-3,838
6	借損料	1,060,260	① 近江神宮宿泊料 ② 比良とびあ入浴料 @610×16人 ③ 淡海湖西生涯学習センター使用料 宿泊料 @2,000×42人×8泊 会議室料 @5,000×7日 ④ 仏性野野営場使用料 ⑤ 針江環境整備費 @1,000×20人 ⑥ ポート使用料 @50,000×2日 ⑦ レンタカー代 9日間 ⑧ その他	63,500 9,760 672,000 35,000 10,000 20,000 100,000 150,000 0	① 近江神宮宿泊料、ホール使用料 ② 比良とびあ入浴料 @620×15人 ③ 淡海湖西生涯学習センター使用料 宿泊料 @2,000×のべ204泊 会議室料 ④ 仏性野野営場使用料(し尿汲取費) ⑤ 針江環境整備費 @500×15人、@1,000×8人 ⑥ ポート使用料 2日分 ⑦ レンタカー代 ⑧ その他	64,000 9,300 408,000 60,600 1,034 15,500 59,356 0	442,470
7	医務費	5,000	① 医務費 ② コロナ対策費 ③ その他	2,000 3,000 0	① 医務費 ② コロナ対策費 ③ その他		5,000
8	人件費	50,000	① 緊急時対応機費(高島トレイルクラブ) ② その他	50,000 0	① 緊急時対応機費(高島トレイルクラブ) ② その他	30,000	20,000
9	雑役務費	5,000	① 郵送費 ② その他	5,000 0	① 郵送費 ② その他	21,270	-16,270
10	事務管理費	0	① 事務管理費	0	① 事務管理費		0
合 計		2,757,980		2,207,899			550,081